

平成 1 1 年度試験研究成果

区分	普及	題名	品種 飼料用とうもろこし極早生品種「ニューデント 90 日 (LG2290)」		
<p>[要約] 飼料用とうもろこし「ニューデント 90 日 (LG2290)」は極早生の多収品種 (乾物、T D N 収量とも) である。</p>					
キーワード	とうもろこし	極早生品種			畜産研究所飼料生産研究室

1 . 背景とねらい

本県には現在、飼料用とうもろこしが 6 , 8 0 0 h a 作付けされており、栽培されている品種も極早生種 ~ 晩生種まで極めて多品種にわたっている。とうもろこしの品種選定にあたっては収量性や倒伏性、耐病性等の他、その地域の気温や標高等を考慮して確実に黄熟期に達する品種を選定することが重要である。

しかしながら、実際の生産現場では本県における栽培特性の不明な品種が用いられていることも多く、期待した収量が確保できない等の混乱が生じる場合もある。

そこで畜産農家の自給粗飼料の安定生産に資するため、最近の試験成績から本県での高位生産が期待できる飼料用とうもろこし極早生品種を紹介する。

2 . 技術の内容

(1) 品種の来歴

フランスで育成された品種であり、単交配のデント × フリント種。平成 7 年より国内販売開始。

(2) 品種特性の概要

ア 雄穂抽出期は標準 (対象) 品種の「ロイヤルデントコスモ 90 (以下 TH9060 と略)」、「ディア」より 4 日遅く、絹糸抽出期も 2 日遅い。また播種 ~ 黄熟期までの所要日数は 1 1 6 日で「ディア」並、「TH9060」より 1 日早い。

イ 形態的特性についてかん長は標準品種並で、着雌穂高は「TH9060」並で「ディア」より 7 cm ほど低い。

ウ 耐病性はすす紋病については標準品種よりもやや弱い、実用上に問題はない。また、黒穂病については標準品種よりも強い。その他の病害については並である。

エ 乾物収量、T D N 収量ともに標準品種を凌ぐ。

オ サイレージ用とうもろこしの総合評価法では 4 年間連続して A ランクであった。

3 . 普及上の留意事項

(1) 一代雑種品種であるため、自家採種はできない。

(2) 適正栽植本数は 7 , 5 0 0 ~ 8 , 0 0 0 本 / 1 0 a

(3) 栽培管理についてはこれまでと同様に牧草・飼料作物生産利用指針を基本とすること。

4 . 技術の適応地帯

有効積算温度 1150 未満の地域

5 . 当該事項に係る試験研究課題

[草地飼料 1] 1 - (2) - ア とうもろこし奨励品種決定基本調査

6 . 参考資料・文献

(1) 昭和 62 年度指導上の参考事項「サイレージ用とうもろこしの総合評価法」

(2) 岩手県農政部「牧草・飼料作物生産利用指針」平成 8 年 3 月

(3) 岩手県農政部「飼料作物優良品種特性表」平成 11 年 3 月

(4) 農林水産省技術会議事務局・農林水産省草地試験場

「飼料作物系統適応性検定試験実施要領 (改訂 4 版)」平成 11 年 4 月

7. 試験成績の概要

(1) 畜産研究所(標高250m)における試験成績

ア 耕種概要

- (ア) 圃場種別：普通畑 土壌型：厚層腐植質黒ボク土
- (イ) 播種期 8年：5/16、9年：5/13、10年：5/15、11年：5/14
- (ウ) 土壌改良資材 炭カル：pH6.5 矯正量、溶燐：燐酸吸収係数2%量
- (エ) 施肥量(kg/10a) 窒素15、燐酸18、カリ15
- (オ) 栽植密度(本/10a) 8,081本(畝間75cm×株間16.5cm)

イ 生育的特性及び形態的特性

品 種 名	播種日からの日数(日)				播種～黄熟期 までの所要積 算温度()		かん長 (cm)	着雌 穂高 (cm)
	発芽	雄穂	絹糸	黄熟	有効	単純		
ニューデント90日(LG2290)	11	68	72	116	1122.0	2279.6	232.0	92.9
ロイヤルデントコシエ90(TH9060)(標)	12	64	69	117	1130.6	2298.1	228.6	93.1
ディア(標)	12	64	70	116	1120.1	2278.2	230.7	100.4

数値は試験期間(H8～11)の累年成績。

ウ 障害及び病害

品 種 名	不稔 割合 (%)	倒伏 割合 (%)	病 害 特 性				
			すす紋 (0～5)	ごま葉 (0～5)	黒穂 (%)	根腐 (%)	萎縮 (%)
ニューデント90日(LG2290)	0.3	0	1.9	0.1	0.4	0.1	0.2
ロイヤルデントコシエ90(TH9060)(標)	0.8	0.3	1.4	0.2	1.2	0.0	0.2
ディア(標)	0.2	0	1.1	0.2	2.1	0.2	0.2

数値は試験期間(H8～11)の累年成績。

不稔割合：H11より系適実施要領改訂4版では不稔個体率から有効雌穂割合に変更になっているが、新旧データ間での比較のため、ここでは11年度値も不稔個体率で整理している。

すす紋病、ごま葉枯病：H11より系適実施要領改訂4版では被害程度の表示は0(無)～5(甚)から1(無)～9(甚)に変更になっているため、11年度値は旧評価法に換算して整理している。

エ 収量性及び総合評価

品 種 名	生 草 収 量 kg/10a	乾 物 収 量					総合評価			
		雌 穂 (A) (kg/10a)	総 重 (B) (kg/10a)	雌穂率 (%)	生産 速度 (kg/10a/日)	TDN 収量 (kg/10a)	試験年次 8 9 10 11			
ニューデント90日(LG2290)	6205.3 (100.6)	1069.9 (109.8)	1880.2 (104.3)	56.9 (105.2)	18.0 (103.4)	1381.0 (105.4)	A	A	A	A
ロイヤルデントコシエ90(TH9060)(標)	6471.5 (104.9)	942.3 (96.7)	1806.6 (100.2)	52.2 (96.5)	17.4 (100.0)	1303.8 (99.5)	A	A	B	A
ディア(標)	5861.8 (95.1)	1005.8 (103.3)	1798.2 (99.8)	55.9 (103.3)	17.4 (100.0)	1316.2 (100.5)	A	A	A	A
標準品種平均	6166.4	974.1	1802.4	54.1	17.4	1310.0				

数値は試験期間(H8～11)の累年成績。()は標準品種の平均値に対する比。

総合評価は昭和62年度指導上の参考事項「サイレージ用とうもろこしの総合評価法」による。